

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成27年11月9日
【四半期会計期間】	第82期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社三社電機製作所
【英訳名】	Sansha Electric Manufacturing Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 四方 邦夫
【本店の所在の場所】	大阪市東淀川区西淡路三丁目1番56号
【電話番号】	大阪（06）6321-0321（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部部長 丸山 博之
【最寄りの連絡場所】	大阪市東淀川区西淡路三丁目1番56号
【電話番号】	大阪（06）6321-0321（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部部長 丸山 博之
【縦覧に供する場所】	株式会社三社電機製作所 東京支店 （東京都台東区東上野一丁目28番12号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第81期 第2四半期連結 累計期間	第82期 第2四半期連結 累計期間	第81期
会計期間	自平成26年 4月1日 至平成26年 9月30日	自平成27年 4月1日 至平成27年 9月30日	自平成26年 4月1日 至平成27年 3月31日
売上高 (百万円)	9,961	10,943	22,113
経常利益 (百万円)	757	1,001	2,289
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	543	728	1,506
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	619	753	2,144
純資産額 (百万円)	17,244	19,269	18,665
総資産額 (百万円)	26,113	27,573	28,007
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	36.39	48.78	100.80
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.0	69.9	66.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,301	331	2,886
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,618	222	2,244
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	961	149	20
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	5,934	6,153	6,204

回次	第81期 第2四半期連結 会計期間	第82期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年 7月1日 至平成26年 9月30日	自平成27年 7月1日 至平成27年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	23.53	37.51

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

#### （1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善と設備投資の増加により全体では緩やかに回復基調をたどりましたが、中国及び新興国経済の成長見通しが鈍化するなど、先行きの見通しに不透明感が高まる状態となりました。

このような事業環境の中、当社グループは今年度、中期経営計画の最終年度を迎え、引き続き「創エネ・蓄エネ・省エネ」に貢献できる『エネルギー・ソリューション・カンパニー』を目指し、社会に価値あるパワーエレクトロニクス製品の拡販に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、半導体事業は主力の一般モジュール等が前年同期比で減収となり、電源機器事業は一般電源で評価用大型設備電源等の納入により増収となりました。これらの結果、売上高は109億4千3百万円（前年同期比9.9%増加）となりました。

利益につきましては、営業利益は10億3千2百万円（前年同期比36.9%増加）、経常利益は10億1百万円（前年同期比32.2%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億2千8百万円（前年同期比34.1%増加）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （a）半導体事業

当事業におきましては、海外需要のウエイトが高まっているなか、主力の一般モジュールでインバータ（特にエレベーター用、掘削ポンプ用）が原油安や中国の景気減速によるインフラ投資が低迷した影響を受け、減収となりました。

これらの結果、当事業の売上高は32億7百万円（前年同期比9.0%減少）となり、セグメント利益は減収及び固定費の増加等により7千万円（前年同期比80.3%減少）となりました。

#### （b）電源機器事業

当事業におきましては、一般電源では上述の評価用大型設備電源等が牽引し、売上高が23億4千3百万円（前年同期比115.3%増加）と大幅に増加したほか、金属表面処理用電源が海外の電子部品向けに堅調に推移し売上高が12億9千5百万円（前年同期比11.7%増加）となりました。

一方、インバータでは太陽光パワーコンディショナにおいて小型品の販売が終息に向かっていることにより減収となったことや主力の大型においてもユーザー側の設置工事の遅延等により、売上高は18億1千5百万円（前年同期比17.2%減少）と伸び悩みました。

これらの結果、当事業の売上高は77億3千6百万円（前年同期比20.2%増加）となり、セグメント利益は増収により9億6千2百万円（前年同期比142.8%増加）となりました。

#### （2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、売上債権の減少額4億4千4百万円などが増加要因として寄与したものの、たな卸資産の増加額5億2千2百万円、有形固定資産の取得による支出2億6百万円などの減少要因があり、結果として、61億5千3百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動において3億3千1百万円(前年同四半期は13億1百万円の流入)の資金の流入となりました。これは主な資金の流入として売上債権の減少額4億4千4百万円などがあり、主な資金の流出としてたな卸資産の増加額5億2千2百万円、仕入債務の減少額1億6千4百万円などがあったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動において2億2千2百万円(前年同四半期は16億1千8百万円の流出)の資金の流出となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出2億6百万円などがあったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動において1億4千9百万円(前年同四半期は9億6千1百万円の流入)の資金の流出となりました。これは主に配当金の支払額1億4千9百万円などがあったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、3億4千9百万円であります。  
なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,600,000
計	42,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,950,000	14,950,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	14,950,000	14,950,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	14,950,000	-	2,774	-	2,698

( 6 ) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
パナソニック株式会社	大阪府門真市大字門真1006番地	3,364	22.51
四方 邦夫	大阪府箕面市	1,088	7.28
三社電機従業員持株会	大阪市東淀川区西淡路三丁目1番56号	368	2.46
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	326	2.18
株式会社池田泉州銀行	大阪市北区茶屋町18番14号	314	2.10
森田 浩一	大阪府箕面市	300	2.01
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号	287	1.92
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	280	1.87
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	195	1.31
四方 ちま子	京都府京都市右京区	179	1.20
計	-	6,703	44.84

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,941,300	149,413	-
単元未満株式	普通株式 1,700	-	-
発行済株式総数	14,950,000	-	-
総株主の議決権	-	149,413	-

## 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社三社電機 製作所	大阪市東淀川区西 淡路三丁目1番56 号	7,000	-	7,000	0.05
計	-	7,000	-	7,000	0.05

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,204	6,153
受取手形及び売掛金	8,093	7,666
商品及び製品	2,581	3,137
仕掛品	970	883
原材料及び貯蔵品	1,104	1,158
繰延税金資産	502	460
その他	1,485	1,422
貸倒引当金	16	15
<b>流動資産合計</b>	<b>19,927</b>	<b>19,867</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	3,228	3,099
機械装置及び運搬具（純額）	1,255	1,082
土地	2,297	2,251
建設仮勘定	60	12
その他（純額）	356	342
<b>有形固定資産合計</b>	<b>7,198</b>	<b>6,788</b>
<b>無形固定資産</b>		
その他	413	400
<b>無形固定資産合計</b>	<b>413</b>	<b>400</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	164	142
繰延税金資産	68	70
退職給付に係る資産	191	246
その他	61	75
貸倒引当金	17	18
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>468</b>	<b>517</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>8,080</b>	<b>7,706</b>
<b>資産合計</b>	<b>28,007</b>	<b>27,573</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,865	3,698
短期借入金	1,832	1,836
未払費用	623	614
未払法人税等	598	233
賞与引当金	570	531
未払金	982	707
その他	451	263
流動負債合計	8,923	7,885
固定負債		
退職給付に係る負債	5	5
未払役員退職慰労金	388	388
その他	24	24
固定負債合計	418	418
負債合計	9,342	8,304
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,774	2,774
資本剰余金	2,698	2,698
利益剰余金	12,364	12,944
自己株式	4	4
株主資本合計	17,832	18,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	60	45
為替換算調整勘定	709	722
退職給付に係る調整累計額	62	89
その他の包括利益累計額合計	832	857
純資産合計	18,665	19,269
負債純資産合計	28,007	27,573

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)
売上高	9,961	10,943
売上原価	7,234	8,018
売上総利益	2,727	2,924
販売費及び一般管理費	1 1,973	1 1,892
営業利益	754	1,032
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	8	7
受取賃貸料	6	7
為替差益	50	-
デリバティブ評価益	-	17
その他	13	8
営業外収益合計	82	43
営業外費用		
支払利息	15	11
支払手数料	1	5
為替差損	-	54
デリバティブ評価損	61	-
その他	0	2
営業外費用合計	78	74
経常利益	757	1,001
特別利益		
固定資産売却益	0	15
特別利益合計	0	15
特別損失		
固定資産廃棄損	5	4
特別損失合計	5	4
税金等調整前四半期純利益	753	1,012
法人税、住民税及び事業税	75	247
法人税等調整額	133	35
法人税等合計	209	283
四半期純利益	543	728
親会社株主に帰属する四半期純利益	543	728

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	543	728
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	14
為替換算調整勘定	65	13
退職給付に係る調整額	2	26
その他の包括利益合計	75	24
四半期包括利益	619	753
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	619	753
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	753	1,012
減価償却費	545	496
貸倒引当金の増減額(は減少)	9	0
賞与引当金の増減額(は減少)	117	39
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	29	0
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	-	15
受取利息及び受取配当金	11	10
支払利息	15	11
有形固定資産売却損益(は益)	0	15
固定資産廃棄損	5	4
売上債権の増減額(は増加)	2,204	444
たな卸資産の増減額(は増加)	318	522
仕入債務の増減額(は減少)	1,036	164
その他	73	252
小計	2,071	948
利息及び配当金の受取額	11	10
利息の支払額	16	11
法人税等の支払額	766	615
法人税等の還付額	0	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,301</b>	<b>331</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,546	206
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	97
無形固定資産の取得による支出	71	113
その他	0	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,618</b>	<b>222</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	1,083	-
リース債務の返済による支出	1	0
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	119	149
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>961</b>	<b>149</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	76	9
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	722	50
現金及び現金同等物の期首残高	5,212	6,204
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,934	6,153

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。 )、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。 )及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。 )等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 債権流動化による受取手形譲渡額のうち支払留保された金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
	138百万円	129百万円

2. 保証債務

従業員の金融機関等からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
	1百万円	0百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1.販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
給与手当	626百万円	626百万円
従業員賞与	125百万円	107百万円



(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

平成26年9月30日現在で、現金及び現金同等物の四半期末残高は四半期連結貸借対照表の現金及び預金勘定と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

平成27年9月30日現在で、現金及び現金同等物の四半期末残高は四半期連結貸借対照表の現金及び預金勘定と一致しております。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	119	8.0	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	104	7.0	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	149	10.0	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	149	10.0	平成27年9月30日	平成27年12月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	半導体事業	電源機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,525	6,436	9,961	-	9,961
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,525	6,436	9,961	-	9,961
セグメント利益	357	396	754	-	754

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	半導体事業	電源機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,207	7,736	10,943	-	10,943
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,207	7,736	10,943	-	10,943
セグメント利益	70	962	1,032	-	1,032

2. 事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更

第1四半期連結会計期間より、各セグメントの経営成績の実態をよりの確に把握することを目的に販売費及び一般管理費の配賦方法を変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の事業セグメントの利益又は損失の測定方法に基づき、作り直したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	36円39銭	48円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	543	728
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	543	728
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,943	14,942

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成27年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....149百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成27年12月7日

(注) 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月9日

株式会社三社電機製作所

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 前川 英樹 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 後藤 英之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社三社電機製作所の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社三社電機製作所及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。